

島根県体操協会

—— これまでのあゆみ

昭和6年2月20日、「島根県体操連盟」として発足。全日本体操連盟発足後1年足らずで、全国に先駆けての創立であった。初代の島根県体育運動主事であった園山亀蔵氏が初代会長として暗中模索の出発であった。

昭和8年11月23日第1回の県選手権大会を開催し、今でいう成年男女、少年男女が42人も集まった。昭和21年に第1回国民体育大会が開催され、その予選を兼ねた島根県体操連盟による体操選手権大会が再開された。

歴代会長は、～昭和30年まで園山亀蔵氏(24年間)～昭和33年まで竹内懋氏～平成8年まで石田浩造氏、～平成10年まで大屋敏郎氏、～平成20年まで渡辺悦男氏、～平成28年まで石橋富二雄氏、～現在まで瀬戸浩二氏がそれぞれ就任。理事長として横田勝之助、山根弘義、松本敏雄、渡辺悦男、青木誠、原洋二、竹谷一、重谷昇、河井誠治の各氏が会長を支えて今に至る。

発足当初より竹本正男、上迫忠夫両選手の大活躍があり、世界にその名を馳せた。以来昭和39年まで、国体では入賞を続けた。

その後やや低迷が続いた。渡辺理事長は、昭和57年「くにびき国体」を目標に、選手育成のため県内に体操教室を普及させ底辺拡大を図る。同時に新体操にも力を注ぎ、男子新体操部も平田高校に作った。さらに、NHK杯体操を浜田の県立体育館で、松江で新体操の優秀選手演技会を開催するなど機運を高めた。そして「くにびき国体」総合優勝へと導かれたのである。

この後は、国体ブロック大会予選通過までに留まっている。体操競技、新体操男女、トランポリンともに、人口減、体操部減の中だが、底辺拡大、競技力向上に向けて力を合わせるときである。

—— 現在の状況

くにびき国体の遺産である県立体育館建設記念大会は小、中、高校生が一堂に会するという稀有な形で続き、令和5年で46回大会を迎える。

また、この大会とは別にジュニアの県大会も開催され、参加数は年々増えている。

中学総体の団体参加は男子3校1クラブ、女子8校。高校は男子2校女子1校であり、クラブ所属選手の存在が大きくなっている。

島根大学体操部は、教育学部の変革とともに競技経験者が集まりにくい状況となっている。新体操について男子は高校の部活動がなくなり、現在、体験会開催やジュニア育成に取り組んでいる。女子は開星中学・高等学校で継続して活動しており、中国ブロック大会や本国体へも出場している。

トランポリン競技は組織が発足したばかりで、県スポーツ協会や本協会との連携のもと、少しずつ競技者が増えている状況である。



第46回島根県立体育館建設記念島根県体操競技大会
選手宣誓 原田碧空翔選手



第46回島根県立体育館建設記念島根県体操競技大会表彰式



第46回島根県立体育館建設記念島根県体操競技大会 平均台

—— これから

戦前、戦後の島根にとって体操競技はお家芸の一つであった。その後、昭和30年代から[※]渡辺悦男氏が島根大学体操部を鍛えるとともに体操競技の普及に努めた結果が、くにびき国体の体操競技総合優勝につながった。その後、指導者、選手が減少傾向となり、成績も厳しい状況が続いた。しかし、近年、浜田市、出雲市、松江市に立ち上がった民間クラブから全国に通用する選手が育ち、中には他県の強豪校で活躍する選手も出てきた。

2030年の島根かみあり国スポを目指す中で、組織の見直し、自主財源の確保、斬新な強化策、民間クラブとの連携など課題は山積状態である。

県民や競技関係者、これまで体操島根を支えてこられた先人の皆様の期待に応えられるよう競技力の向上に取り組んでいきたい。